

港区立高松中学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」の観点において、メモを取る、話題の中心をとらえて必要事項を箇条書きで記す等の指導を行った結果、話し手の工夫を聞き取る、話の内容を正確に聞き取ることが昨年度よりもできるようになってきている。 ・文節について理解を深めるため、授業内で随時文の成分について確認を行ったことにより、文節への意識は高まってきており、主述のねじれ等に自ら気づく生徒も増えてきている。しかしながら伝えたい内容を明確にして書くという点においては不十分である。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「書く」の観点において、相手の伝えたいことを正確にとらえたうえで、自分の伝えたい事柄を明確にして伝える力の伸長を図るため、箇条書きやナンバリングを用いたメモの工夫について継続的に指導を行い、必要に応じて内容を要約させたり、書き直させたりする。そのうえで自分の考えを話したり書いたりするよう指導し、正確に内容をとらえ、明確に伝えるということを意識させる。
社会	昨年度の課題	<p>思考すること自体は授業での反復した活動で慣れが生まれ、記述量を含め充実するようになった。しかし基礎・基本の知識の定着については不十分な生徒が見られた。また基本的な資料の読解についてなど技能面でも生徒の中で大きな差があった。確実な知識の定着や、基本的な技能の習得をさせていくことが課題である。</p>
	今年度の取組	<p>知識の定着や、技能の習得に必要なのは反復であると考えるので、関連する知識の振り返りや、同じような資料の読み取りを丁寧に行っていく。また単元のまとめでの知識・技能の習得を深める工夫を行っていく。こういった活動により、より正確に資料を読み取り、知識を活用できるようになり、より深い思考につなげていけると考える。</p>
数学	昨年度の課題	<p>家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多く、既習内容の定着が不十分である。基礎的・基本的な知識・技能をさらに身につけさせる必要がある。見方や考え方が問われる問題が苦手な生徒が多いのが課題である。</p>
	今年度の取組	<p>家庭学習を定着させるために、引き続き宿題プリントを充実させる。既習内容を定着させるために、授業始業時に前時の確認を行い、発言によって自信をつけさせる。また、小テストを行って基準に達することができるよう指導する。見方や考え方の力をつけるために、話し合い活動を充実させ、言語活動を充実させる。</p>
理科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度港区学力調査から、正答率は基礎、活用ともに区の平均を上回る成績であった。しかし、分野別の資料を見てみると、正答率が昨年度より 2 桁も差がある内容があった。顕微鏡の使い方、溶解、力学の 3 つについては、中学 1 年生で履修する内容である。この内容に関しては、基礎から教えていきたいと思う。逆に地学関係はかなり正答率が高いので、応用を含んだ授業の展開を考えたい。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度港区学力調査から、正答率は基礎、活用ともに 1, 3 年は全国平均、区平均を上回る成績であった。しかし、2 年生に関して、基礎は全国、区平均点を下回り、活用は区の平均点を下回る結果であった。詳しく見ると、気体の性質と水溶液の性質が区の平均点よりも 5 点以上低かった。そこで今年度は、観察実験を多く取り入れ、気体の性質と水溶液の性質についての知識を増やすように心がけていきたいと思う。
音楽	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図をもち、必要な技能を身に付けて音楽表現をする生徒が多くなってきたが、クラスによって深まりが異なったり、得意不得意で取り組みや意識の差が大きく出てしまうことがある。音楽が得意な生徒も苦手な生徒も興味関心がもてるような主体的な活動を重視し、その中で効果的に学習内容を身に付けられるようすることが課題である。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや手だてを明確にし、感性を高め、思考・判断し、表現する過程を一層重視し、技能を定着させることによって音楽表現をさらに豊かにしていきたい。また、新学習指導要領で加えられる「音楽文化についての理解を深める」という目標についても、昨年度まで行ってきた指導より、さらに工夫し、見通しをもった計画で進めていくようにする。表現と鑑賞を通して我が国や郷土の伝統音楽などに親しみ、さまざまな音楽にも興味を広げ、創意工夫して表現する能力と幅広く主体的に鑑賞する能力を高める指導を心がけたい。

美術	昨年度の課題	作品づくりにおいて、ICT 機器を利用して繰り返し技術指導を行った結果、基礎的な技能の定着が充分に見られるようになった。しかし、基礎的な技能をもとに、主体的に試行錯誤を繰り返し、創意工夫する力は不十分である。そのため作品内容を発想・構想する際の達成目標が曖昧になりがちである。他者の作品や表現方法に触れることで見方・考え方を広げ、自己の表現したいイメージをしっかりと意識させられるよう指導の工夫が必要である。
	今年度の取組	作品について発想・構想する際の時間を充分にとり、自分の表現意図を言葉や文章におこすことで達成目標を明確に意識させる。また、鑑賞教材を積極的に取り入れる。他者の価値観に多く触れさせる活動を重ねるなかで見方・考え方を広げ、より客観的に判断し表現を深めることができると考える。
保健体育	昨年度の課題	体育分野においては、全体的な体力要素が低いと、どの項目においても底上げをしていく必要がある。「投げる」と「持久力」を高めるための取り組みが必要である。 保健分野ではグループ学習を通してロールプレイング的な学習を取り入れることで、「思考・判断」がより充実させられるように指導する必要がある。
	今年度の取組	単元ごとに到達目標を明確にし、目標達成のために何をすべきかを考え行動につなげられるように指導法を工夫する。 個人の目標設定をさせ、その目標達成のための手段を自ら考え行動に移すことを促す。また、そのチェックや助言を教師が行うことで、よりの確で効果的な学習活動につなげていく。
技術家庭	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物作りの製作に関する興味・関心は高いが、理論に関しては関心が低い。 ・発想力はあるが、自分の考えを実現させる為にはどういったプロセスが必要なのかを導く事が出来ない。 ・1 単元ごとに目標を決めさせ、達成させるよう指導をしていく。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実習教材などを見直し工夫する事で、進んで創造する能力を育む。 ・毎時間、目標に到達できるように、作業開始前に目標を設定させる。 ・実際の作業内容を見せながら説明することで、作業の注意点を確認させ、作業が失敗しないように心掛けさせる。 ・安全指導には特に重点を置き、事故や怪我に繋がらないように注意を払う。
英語	昨年度の課題	昨年度は、学力調査から各領域ともバランスよく学習している様子が見えかけた。前年度の調査から、特に表現分野に苦手傾向が見られていたので、授業で既習の知識・表現を使う場面を設定し、繰り返し指導してきた成果と思われる。「書くこと」や「話すこと」の指導に重点を置きながら、生徒から要望の多い丁寧な文法指導も盛り込み、生徒の学習意欲を喚起させることが、昨年度の課題であった。
	今年度の取組	今年度は、学力調査の結果から、目標値や全国平均値は超えているものの、区内の正答率と比べると低い傾向にあることがうかがえる。特に、中3では、語彙の知識はありながら、整序英作文を不得手としていることや、中2では、場面に応じて書く英作文を苦手としていることを踏まえて、今後は、「書くこと」の指導に重点を置いた授業の展開をしていく必要がある。